はじめのいっぽ！シリーズ

かけ算九九カードゲームの使い方

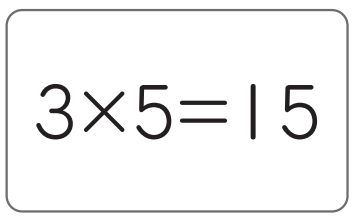
遊び方…… ❷
活用例…… ❸
応用例…… ❼

入っているもの

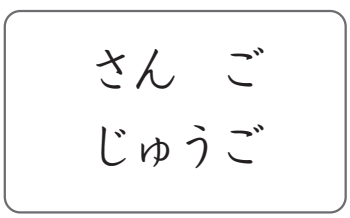
かけ算九九の1つの段につき6種類のカードが54枚あります。これが1〜9の段それぞれにありますので、全部で486枚のカードが入っています。

式カード

答えカード

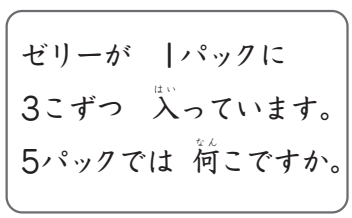


式・答えカード



唱え方カード

絵カード



問題文カード

この教材は

カードでいろいろなゲームにチャレンジしながら、楽しく九九が学べます。

活用するカードの組み合わせによって多様なゲームができるため、子どもたちは飽きることなく繰り返しかけ算の学習に取り組めます。

例えば「式カード」と「答えカード」の組み合わせで、九九の暗唱練習が、「式カード」と「絵カード」の組み合わせで、意味理解を図るゲームもできます。また「問題文カード」と「絵カード」を組み合わせると、文章問題に慣れてきます。このように短時間で数多くの問題にチャレンジできるようになっています。

一般的には小学校2年生でかけ算九九を学習しますが、カードの活用枚数や種類を増やすことによってゲームの難易度を変えることができ、3年以上の学年でも違和感をもたずにゲームをしながら九九の学習をすることができます。

遊び方
基本となるゲームの進め方

1 人数▶2～6人

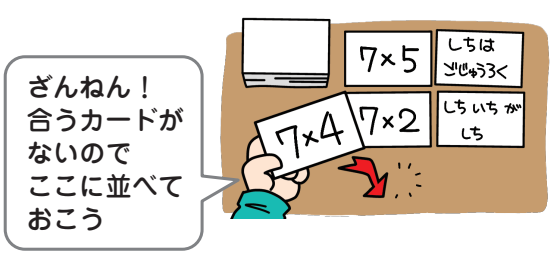
2 使うカード▶練習させたい段の2種類のカード（各9枚ずつ）

3 ゲームの手順

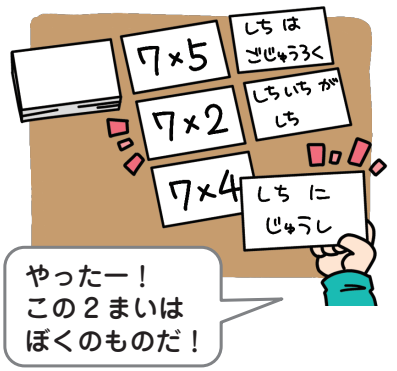
① 使うカード（18枚）をよく混ぜて山札とし、机の上に裏向きに置く。
　初めだけ、山札から4枚のカードを取り、表向きに机に並べておく。
※カードを並べるときは、種類ごとに分けて並べると、マッチングがしやすくなる。

② カードを引く順番を決め、1番の人は山札からいちばん上のカードを1枚めくる。

③ 自分の引いたカードとマッチするカードがない場合は、そのカードを机の上に並べる。



④ 自分の引いたカードとマッチするカードがある場合は、引いたカードとマッチしたカードの2枚は自分のものとなる。



⑤ 次の順番の人がカードを引く。
※マッチするカードがあってもなくても、カードを引くのは一人一回ずつ。

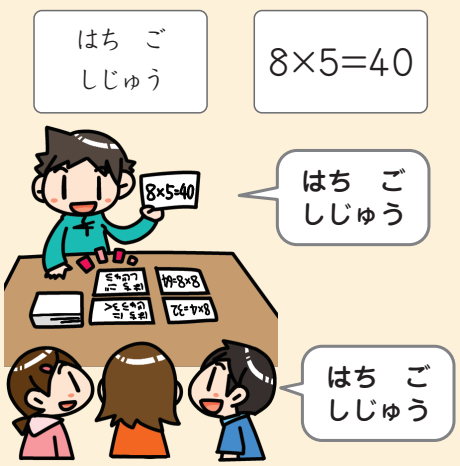
⑥ 山札がなくなるまで繰り返し、最後に手持ちのカードの枚数がいちばん多い人の勝ち。

以下は、この手順で行うゲームの活用例です！

活用例 1 九九の暗唱練習ゲーム

- 九九の唱え方を文字を見て確認できる
- 正しい唱え方を耳で聞いて確認できる

「唱え方カード」と「式・答えカード」の組み合わせで暗唱練習！



ルールのひと工夫！

① マッチするカードがあったときは、周りにカードを見せながらカードに合わせて九九を唱えさせます。

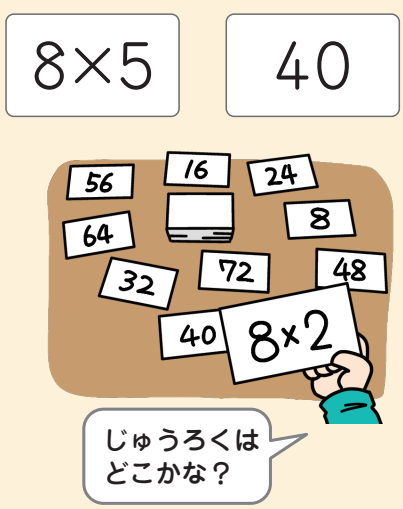
② 正しく唱えられたら、みんなでもう一度声をそろえてその九九を唱えさせます。

※九九を正しく唱えられたときだけ、カードがもらえます。

こうすることで…

繰り返し九九の唱え方を聞いたり、実際に声に出して唱えたりする練習が楽しくできます。

「式カード」と「答えカード」の組み合わせで暗唱練習！



ルールのひと工夫！

○ 「答えカード」はあらかじめ机の上に並べておき、「式カード」のみを山札にする方法、習熟度に合わせて「式カード」と「答えカード」を混ぜて山札にする方法もあります。

○ 唱え方が書かれた九九表を準備しておき、唱え方を忘れたときは、自分で確認できるようにしておきます。

こうすることで…

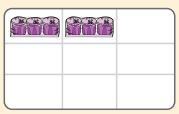
どの子も自分のペースで九九を学んだり、安心してゲームに参加したりすることができます。

このゲームのよさ！ 九九の唱え方の中には、子どもたちが日常ではあまり使わない読み方があります。例えば、9×4 の9は「きゅう」ではなく「く」、3×6 の3は「さん」でなく「さぶ」と唱えます。また、同じ数字の8でも式によって、「は」、「ば」「はち」「はっ」、と唱え方が変わります。耳で聞いただけではすぐに数字と唱え方が一致できない場合でも、唱え方カードを使ったゲームをすることで、繰り返し文字を見て確認をしていくことができます。

活用例 2 九九の意味理解を図るゲーム

- 九九の意味を絵で見て確認できる
- 基準量のいくつぶんと式の関係が確認できる

複数の段の「絵カード」と「式カード」の組み合わせで意味理解を図ろう！



3×2

ルールのひと工夫！

○　初めは、習った段のカードごとに活用し、九九の意味が理解できたら、まだ習っていない段のカードでもゲームを行います。

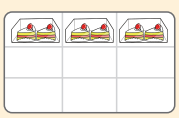
○　九九の暗唱ができなくても九九の意味が理解できていれば、どの段のカードでもゲームが可能です。

こうすることで…

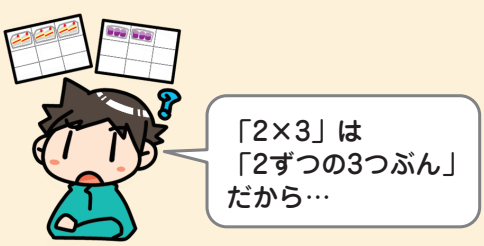
「難しい問題ができた！」という自信を持たせることができたり、これから学習を進める段の事前学習ができたりします。

「絵カード」と「式カード」の組み合わせで意味理解を図ろう！

3×2



2×3



ルールのひと工夫！

○　2の段と3の段など、複数の段のカードを組み合わせてゲームをします。

こうすることで…

「2×3」と「3×2」の違いを「絵カード」を見て具体的に確かめたり、答えが同じ数でも、「2ずつの3つぶん」と「3ずつの2つぶん」の式の違いを明らかにしたりすることができます。

このゲームのよさ！　九九の暗唱はすらすらできても、九九の意味を理解することが苦手な子どもがいます。このような子どもたちは、計算問題は得意ですが、文章題になると式が逆になるなどの間違いをしてしまいがちです。このゲームは「絵カード」を活用することで、かけ算の「ずつ」と「ぶん」の関係を丁寧に押さえ、このような間違いを減らすことを目的としています。

活用例 3 九九の文章題に慣れるゲーム

- 題意の読み取りに慣れる
- 式の立て方に慣れる

「問題文カード」と「絵カード」の組み合わせで文章題を読み取ろう！

ルールのひと工夫！

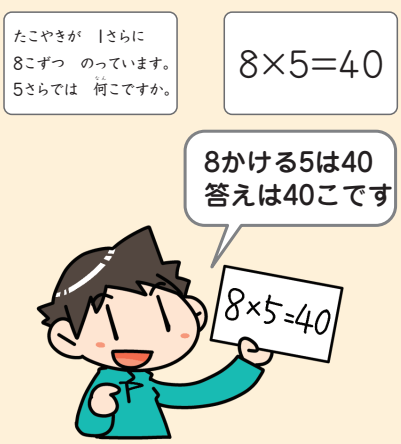
○　絵カードは1枚だけ使います。その1枚を机の上に表向きで置き、問題文カードを全部山札にします。（その逆もできます。）

○　山札を1枚ずつ引いて、机の上に置いた1枚の絵カードに合う問題文カードを引いた人の勝ちとします。

こうすることで…

必要な数値に注目して問題を解く意識付けができます。

「問題文カード」と「式・答えカード」の組み合わせで文章題に慣れよう！



ルールのひと工夫！

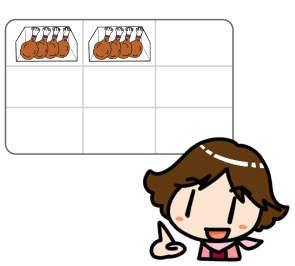
○　「式・答えカード」は机の上に表向きで並べておき、山札の「問題文カード」と合わせるゲームから始めます。慣れてきたら問題文に合った答え方（「○こ」「○枚」など）まで言わせ、合っていたらカードがもらえることにします。

こうすることで…

文章題には式と答えが必要だということを理解させることができます。

このゲームのよさ！　かけざんの問題作りでは、この絵カードをヒントカードとして活用できます。例えば、フライドチキンのヒントカードを見て、「フライドチキンが1はこに4本ずつ入っています。2はこでは何本になるでしょう」とカードに合わせて問題作りの練習をさせます。

子どもたちが問題作りの最初の段階で迷いがちな「何の問題にしよう？」「どんな数にしよう？」を、このカードで示すことによって次第にコツをつかませ、やがては自分で自由に問題が作れるようにしていきます。



活用例 4 九九の定着を図るゲーム

● 暗唱練習・意味理解・文章題に数多く触れながら定着を図る

6種類全部のカードで九九名人になろう！

ルールのひと工夫！

○　習熟度に合わせて、一つの段だけのカードを使ったり、複数の段のカードを使います。

○　間違いやすい九九だけピックアップしてゲームをすることもできます。

こうすることで…

短い時間の中でも、いろいろなパターンのカードを組み合わせた問題に数多く触れることができます。

楽しみながら九九の習熟を図ったり、ゲームを楽しみたいという気持ちが、子どもたちの学習意欲を支えたりできます。

▼ その他のゲームの進め方 ▼

応用例 1 九九かるた

読み札が「式カード」、取り札が「答えカード」で九九かるたの場合

①　読み手は読み札の「式カード」を見て九九の唱え方を読む。

②　「はち　ろく」と聞いて、取り手は「答えカード」の48を取る。

③　最後に手持ちのカードの枚数が多い人の勝ち。

応用例 2 九九の神経衰弱

2の段, 3の段の「式カード」と「絵カード」で九九の神経衰弱の場合

① 神経衰弱の要領でカードを引く順番を決め、1番の人は「式カード」を並べているゾーンから1枚、「絵カード」を並べているゾーンから1枚、カードを選んで表向きにする。

② 「式カード」に合う「絵カード」を引いたら、その2枚のカードは自分のものになり、もう一度カードをめくることができる。

※2枚のカードが合わなかった場合は、元の場所にカードを裏返して戻し、次の人と交代する。

③ 最後にカードの枚数の多い人が勝ち。

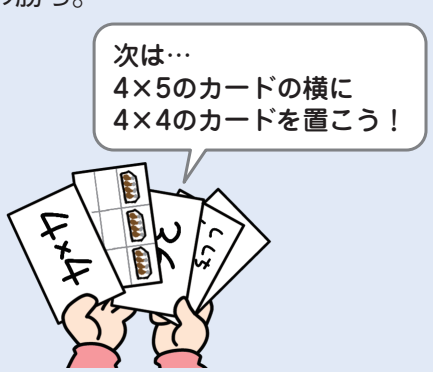
応用例 3 九九並べ

4の段の全ての種類のカードで九九並べの場合

① 4の段の全ての種類のカードを全員に同じ数ずつ配る。

② 初めに4×5を表すカードを6枚並べる。

③ 後は七並べの要領で、順にカードを出し、手持ちのカードが一番先になくなった人の勝ち。



応用例 4 九九の切り札

4の段の「絵カード」「式カード」「答えカード」「唱え方カード」で切り札の場合

① カードをよく混ぜて、同じ数ずつ全員に配る。

② それぞれ自分の前に配られたカードを裏向きにして山札を作る。
※2人でゲームをする時は、1つの段のカードだけを活用する。人数が多い時は複数の段のカードを活用することがお勧め。

③ 順番を決め1番の人から順にカードを1枚ずつ表向きに出し、カードの九九を唱える。

④ 全員が1枚ずつカードを前に出した後、九九の答えがいちばん大きい数のカードを引いた人は誰か確認し、いちばん大きい数のカードの人が全部のカードをもらえる。

⑤ ③～④を繰り返し、最後に手持ちのカードがいちばん多かった人の勝ち。
※慣れてきたら、「せーの」のかけ声で、全員が一斉に自分のカードを表向きに出し、テンポ良くゲームを進めることもできる。

⚠ 注 意 〈先生・保護者の方へ〉ご使用前に必ずお読みください。

- 必ず保護者（または先生）が一緒に使用してください。
- 本来の目的以外には使用しないでください。
- カードをなめたり、口に入れたりしないよう注意してください。
- 投げたり、振り回したりなど乱暴な扱いはしないよう注意してください。
- カードの端で手指を切ることがあるので注意してください。
- 並べたカードの上に乗ると、滑って転倒することがあるので注意してください。
- 火気に近づけたり、熱源のそばでは使用しないでください。
- 安全のため破損・変形したものは使用しないでください。
- 使用後は後片付けをし、幼児の手の届かないところに保管してください。

主な材質　カード：紙＋印刷
MADE IN JAPAN

プラ
カード帯：PP

(株)学研教育みらい
学校教育事業部
TEL 03-6431-1151

カードイラスト／富山真心　取扱説明書イラスト／森永みぐ

3200001477